



「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」第120号をお届けします。

【1】2017年1月AP研開催報告

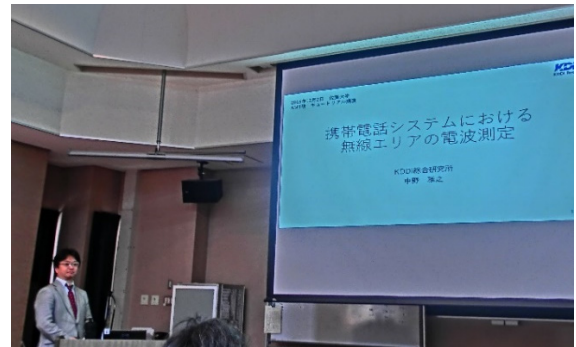
2017年最初の1月AP研は、19(木)・20(金)に、広島工大広島校舎にてWPT研との併催で開催されました。「将来の無線システムを創造する電波伝搬の研究」と題した伝搬オーガナイズドセッションが開催され、活発な議論が行われました。また、チュートリアル講演として、広島市大の西正博先生により、「地上デジタル放送における異常伝搬対策技術の検討」というタイトルでご講演頂きました。地上デジタル放送における異常伝搬の現象解明のため、FM放送波を同時に測定して送信源を特定する、といった斬新な技術についてご説明頂きました。



西正博先生

【2】2016年12月AMT研開催報告

2016年12月のAMT研は、2(金)に佐賀大学で開催されました。チュートリアルワークショップでは、KDDI総合研究所の中野雅之氏より、「携帯電話システムにおける無線エリアの電波測定」というタイトルでご講演頂きました。第1～4世代の移動通信システムの無線エリア評価と今後のシステムのための展望についてご紹介頂きました。また、前日には、恒例となっている見学会として、はがね山標準電波送信所を見学させて頂きました。見学をご手配頂いた関係者の皆様に感謝致します。



中野雅之氏

【3】2017年度AP研開催予定

AP研(第一種研究会)の2017年度開催計画が以下のように決定されました。毎回の発表申し込み締切は開催2か月前の10日です。多数のご投稿・ご参加をお待ちしています。なお、日程や会場を含めた開催内容は変更する場合があります。最新情報はAP研HPでご確認下さい。

開催日	開催場所	テーマ	併催・共催
4/20・21	阪大	一般	IEEE AP-S Kansai Chapter, URISI-F
5/18・19	宮崎	電波伝搬, 一般	IEEE AP-S Fukuoka Chapter, URISI-F
6/8	機械振興会館	一般	IEEE AP-S Tokyo Chapter
7/27・28	名工大	衛星通信, リモートセンシング, 電波伝搬, 一般	SAT研, SANE研, IEEE AP-S Nagoya Chapter, URISI-F
8/24・25	函館高専	一般	IEEE AP-S Tokyo Chapter
9/21・22	埼玉大	マイクロ波・ミリ波, 一般	MW研, IEEE AP-S Tokyo Chapter
10/19・20	八戸商工会館	学生特集, 一般	IEEE AP-S Tokyo Chapter, URISI-F
11/8～10	福岡	無線通信, 一般	RCS研, IEEE AP-S Fukuoka Chapter
12/14	機械振興会館	一般	IEEE AP-S Tokyo Chapter
1/18・19	ATR(京都)	無線電力伝送, 電波伝搬, 一般	WPT研, IEEE AP-S Kansai Chapter, URISI-F
2/15・16	構造計画研究所 (東京)	企業特集, 一般	IEEE AP-S Tokyo Chapter
3/8・9	群馬	一般	IEEE AP-S Tokyo Chapter

【4】 技報完全電子化について

来年度(2017/4月)より、通信ソサイエティの全ての研究会において、技報が電子化された参加費型の研究会がスタートします(※)。AP研では今年度からすでに電子化トライアルを実施していますが、来年度も今年度と同様に年間登録(税込6480円)により、研究会2回分の参加費程度の金額で1年間の研究会の無料参加と技報のPDFダウンロードが可能となります。また、年間登録者は研究会講演のWebによる遠隔聴講が可能です。是非、年間登録をお願いします。詳細はAP研HPに最新情報を掲載します。

※：来年度は技報冊子体も発行されます。年間購読も可能です。ただし研究会会場では販売しません。再来年度からは冊子体はなくなる予定です。

【5】 2017年3月電子情報通信学会総合大会のご案内

昨年12月のお知らせでもお伝えした通り、総合大会が3/22(水)～25(土)の4日間、愛知県名古屋市名城大学で開催されます。23(木)にAP分野の中堅研究者によるアラカルトセッション(13:15～16:45、場所N322)、24(金)には「多様化するアンテナ測定技術に関する最新研究動向」と題したシンポジウムセッション(13:00～17:00、同N323)が、それぞれ開催されます。皆様、奮ってご参加下さい。

【6】 AWAP2017開催案内

2017年6月にAP研の第二種研究会として開催予定のAWAP2017(2017 Asian Workshop on Antennas and Propagation)についてご案内します。AWAPは日本・韓国・タイの3か国の合同ワークショップです。申込み方法やスケジュール等の詳細はAP研HPをご参照下さい。多くの皆様のご発表・ご参加をお待ちしています。

- 会期: 6/28(水)～30(金)
- 会場: 北海道大学工学部フロンティア応用科学研究棟
- 発表申込締切: 2017/4/30 ・ 原稿提出締切: 2017/5/31

【7】 今後のAP研開催案内

2017年3月のAP研は16(木)・17(金)に岩手大で開催します。東京農工大学の有馬先生による、周波数依存をFDTD法に組み込む手法に関するチュートリアル講演を予定しております。皆様ぜひご参加下さい。

4月のAP研は20(木)・21(金)に大阪大学で、5月のAP研は18(木)・19(金)に宮崎県のホテルメリーージュにて開催します。5月AP研の発表申込締切は3/10(金)です。多くの発表申込をお待ちしています。

【8】副委員長の戯言

新年を迎え今号も2月ということで、AP研関係者の多くの方も含まれる大学関係者にとっては忙しい時期になりました。ほんの少し前に配属されたばかりと思っていた学部生さんももう卒論書いて卒業する時期です。これも私だけではないと思いますが、年齢を重ねるにつれて年月の経つのがどんどん速く感じるように感じます。ネタ探しに過去のお知らせを読み返していたら、26号(2008年6月号)で牧野先生が「平均年齢による精神年齢正規化一定説」を唱えられていました。私の類似理論は「時間進行脳クロック速度相対説」です(牧野先生と理論の対象は異なります)。すなわち、「若いときは人間も高速クロック=周りの時間進行が相対的に遅い」、それに対して、「年をとると低速=時間進行が早い」、という理論です。感覚的にはいい解釈のように思え、それをサポートしてくれる人がいないかネット検索してみました。どうやら的を外してはいないようです。人間の脳は、クロック換算数百Hz程度で高速処理ではなく並列処理で稼いでいる、計算機のような単純計算の繰り返しではないのでクロック速度という概念では一概に定量化できない、などなど。だいたい、年月の経過は早くなるけど、1分とかの短時間の時間感覚は変わらないですね。仕事にも時間にも追われているだけです。牧野先生はご自分の理論を「思いつきの暴言」であると締めくくっておられますが私も同じでした。_| |_|○

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 岩井誠人(同志社大)
E-mail: ap_ac-chair@mail.ieice.org (AP研執行部のメールアドレス)
AP-NET: AP研の最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はAP研HPにて
AP研HP: <http://www.ieice.org/cs/ap/jpn/>
ISAP Archives: <http://ap-s.ei.tuat.ac.jp/isapx/>

